

秋葉神社と祟り石

桜山八幡宮境内の絵馬殿から長い石段をあげると、正面に秋葉神社本殿があります。御祭神は、迦具土の神（かくつちのかみ）という火事を防ぐ神様です。3代高山城主金森重頼が高山城を護る神様としてお祀りしたのが始めとされており、旧高山火消組から続く「飛騨秋葉講」の本社。平成25年に、市の有形民俗文化財に指定されました。隣に祀られているのが、祟り石です。神社を汚す者が触れると狂人になるという言い伝えられている霊石です。



ぶり街道 (越中街道)

330年ほど前、6代高山城主 金森頼時が二之町村の町代 川上善吉に魚問屋を始めることを許しました。古くより高山には越中（富山県）からたくさん魚が入ってきました。魚をはじめとする物資の運搬のために整備された越中街道は、ぶり街道とも呼ばれました。魚は美濃や信州（長野県）にも送られ、信州の人達は飛騨ぶりと呼び、飛騨に海があると勘違いした人もいたようです。



高桑家住宅

越中街道沿いに建つ大邸宅。今から140年前に起きた大火の後に再建されたこの家は、その後売りに出され、生糸の販売で財を成した高桑家がい取ったものです。幅約17m・奥行約43mの敷地内には、主屋と茶室、本蔵・中蔵・漬物蔵の3つの蔵が建ち並びます。主屋には、20もの部屋があります。表格子の下には、かつて交通や運搬の手段であった馬や牛をつなぐための「駒つなぎ」と呼ばれる鉄の輪があります。



桜山八幡宮

屋台会館

左京屋敷跡

2代高山城主 金森可重は、五男 重勝に飛騨の名家「江馬氏」のあとを継がせようと、高原郷3千石を分与し、分家させました。重勝は、兄である3代高山城主 重頼に家老としてつかえました。この屋敷は、重勝が左京亮（さきょうのすけ）という職であったので左京屋敷と呼ばれました。現在は秋の高山祭において、ご巡幸の順道場（じゅんどうば）となり、各屋台組の代表が世話人に、祭を厳粛に行う誓いを行います。



飾り物 (@咲芳寺)

「子ども達に、伝建地区や景観保存区域の歴史や伝統文化を学んでもらおう」と、関わりがある各所をスタッフをもらいながら観て巡る催し物（主催/子ども伝承部会・後援/高山市）が7月23日に行われました。4回目の今回は、一般公開されていない「高桑家住宅」の見学や、防衛手段としての道の構造解説など、子ども達はもちろん、引率の部会メンバーにとっても貴重な体験となりました。

- 普段は入れない建物の中まで入ることができて良かった。
- 建物のいろいろな工夫や伝統を知ることができて面白かった。
- 鍵の手で道が2つに分かれて細くなっていく工夫が、武将好きなのでタメになった。
- 飾り物は、いろいろな道具を使って、いろいろな表現をしていて、すごいと思った。
- 屋台会館で、いろいろな屋台を見ることができて嬉しかった。
- 次回は体験できることを取り入れて欲しい。
- アンケートに、様々な感想を残してくれました。

高山別院

下町発見



越中街道の鍵の手

初代高山城主 金森長近は、1586年に豊臣秀吉から飛騨の国をゆずり受け、2年後に高山城を築城しました。城下町は京都になって、碁盤目状の町割りにしました。この頃、敵対関係にあった富山城主 佐々成政に対する防衛的配慮として、越中街道に鍵の手を作りました。道が直角に曲がることで見通せないようにし、攻めてきた軍勢を半分に割るのが狙いです。宿場町や城下町にみられる構造の一つです。



吉島家住宅 日下部民芸館

